

# 保育現場における保育課程の意識調査

—保育者と保育者志望学生の比較—

原田 敬文・正木 泰次

Attitudes toward the Curriculum for Early Childhood  
Care :Comparison between Childcare Workers and  
Students in a Training School

Takafumi Harada, Yasutsugu Masaki

豊岡短期大学 論集

第 16 号 別冊

令和 2 年 3 月 31 日 発行

# 保育現場における保育課程の意識調査

## —保育者と保育者志望学生の比較—

Attitudes toward the Curriculum for Early Childhood Care : Comparison between Childcare Workers and Students in a Training School

原田 敬文・正木 泰次

Takafumi Harada, Yasutsugu Masaki

### はじめに

保育所（園）や幼稚園を取り巻く環境が大きく変化しているなか、幼稚園教員や保育士は、乳幼児を理解し、活動の場面に応じた適切な指導を行う力をもつことが重要であり、さらに、家庭との連携を十分に図りつつ教育を展開する力なども求められている。

保育現場においては、保育所保育指針、各保育所の保育方針等をもとに、保育課程が編成される。保育課程はいわば、各保育所の保育の中核を担うものである。

保育者養成施設において、保育実習において、保育のねらいや内容を立てるときに、どのように計画を立てればいいのかを悩む学生も少なくない。

そこで、本研究では、保育者が保育の指導案を作成するとき、保育課程をどのように理解しているのか、また、どのように保育課程は活用されているのかを明らかにする。

また、保育現場における保育課程のあり方を理解することで、今後の保育者養成校における保育所実習のあり方、保育者養成のあり方についても検討する。

### 保育課程とは

各保育所の保育の方針や目標に基づき、子どもの発達過程を踏まえ、保育の内容に示されたねらい及び内容が保育所生活の全体を通して、総合的にどのように保育を行うかを計画したものである。

地域の実態、子どもや家庭の状況、保育時間などを考慮した上で、子どもの育ちに関する長期的見通しを持って、適切に編成されることが望まれている。

「保育課程」は、保育時間の長短、在所期間の長短、途中入所等に関わりなく入所児童すべてが

対象となり、保育所の保育時間は、児童福祉施設最低基準に基づき、1日につき8時間を原則とし、地域における乳幼児の保護者の労働時間や家庭の状況等を考慮して、各保育所において定めることとされている。

保育課程は各施設長の責任の下、全職員が参画して、共通理解と協力体制のもとに創意工夫して編成されるものである。

### **保育課程の編成の手順**

- 1) 保育所保育の基本について職員間の共通理解を図る。
- 2) 各保育所の子どもの実態や子どもを取り巻く家庭・地域の実態及び保護者の意向を把握する。
- 3) 各保育所の保育理念、保育目標、保育方針等について共通理解を図る。
- 4) 子どもの発達過程を見通し、それぞれの時期にふさわしい具体的なねらいと内容を一貫性を持って組織するとともに、子どもの発達過程に応じて保育目標がどのように達成されていくか見通しを持って編成する。
- 5) 保育時間の長短、在所期間の長短、その他子どもの発達や心身の状態及び家庭の状況に配慮して、それぞれにふさわしい生活の中で保育目標が達成されるようにする。
- 6) 保育課程に基づく保育の経過や結果を省察、評価し、次の編成に生かす。

## **研 究**

### **1. 調査目的**

保育者・幼児期教育を目指す学生と保育・幼児教育現場に勤務する保育者が、保育課程をどのように捉えているかを明らかにすることを目的とする。

### **2. 調査方法**

#### **(1) 調査時期・調査対象**

平成29年1月に、保育士・幼稚園教諭養成校に在籍する学生81名と、保育・幼児教育現場で働く保育者24名（保育園12名、こども園12名）を対象に、「保育課程に関するアンケートを実施した。

#### **(2) 調査内容**

松村(2004)<sup>1)</sup>の「幼児の教育課程・保育計画・指導計画 [試論] : 指導計画の役割・機能を考える」の授業アンケートを参考にアンケート項目を作成した。

調査内容は、

- ① 保育の指導案を作成する際に、保育所の指導計画（保育のねらい、時間、活動の流れ）を見ているか。（学生においては、実習において、どのように作成したか）
- ② 保育中の活動の流れをどのようにつかんでいるか。（学生においては、実習において、どのように流れをつかんだか。）
- ③ 保育計画は必要と思うか。

とした。フェイスシートで、性別・保育の経験年数（学生の場合は学年）を尋ねた。

### 3. 結果

- ① 「保育の指導案を作成する際に、保育所の指導計画（保育のねらい、時間、活動の流れ）を見ているか。」についての回答結果。

表1 「保育の指導計画を見ているか」

	保育者(n=24)		保育者希望学生(n=81)	
	人数	割合	人数	割合
園の保育計画を見ている	21	88%	18	22%
園の保育計画を見していない	2	8%	46	57%
保育計画の存在を知らない	0	0%	10	12%
その他	1	4%	7	9%
	24	100%	81	100%

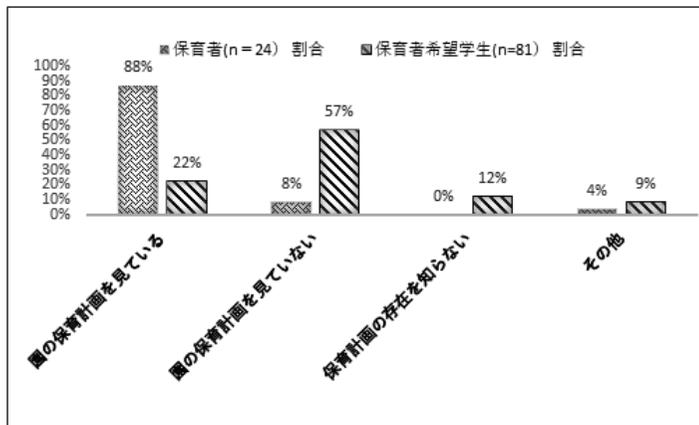


図1 「保育の指導計画を見ているか」

保育現場で働く保育者は、指導案を作成する際に、園の指導計画（保育のねらい、時間、活動の流れ）を見ていると回答した人が、21名（88%）であるのに対して、保育者志望の学生は、18名（22%）となっている。

また、指導案を作成する際に、園の指導計画（保育のねらい、時間、活動の流れ）を見ていると

回答した人が、2名(8%)であるのに対して、保育者志望の学生は、46名(57%)となっている。

現場で働く保育者は、保育計画に基づいて指導案を作成し、保育を行っていることが伺えるが、保育実習の学生は、保育計画をあまり意識せずに指導案を立てていることが読み取れた。

これらの理由に関して、回答した理由を自由記述で求めたところ、保育現場に勤める保育者は、「保育の連続性を考えるためには、保育計画が必要である。」と認識している保育者が多かった。

また、保育者志望の学生が、実習時に保育計画を見なかった理由としては、「担任の先生からの口頭の助言で指導案を作成した。」や、「指導案を作成することだけに気を取られ、全体の指導計画まで考慮することができなかった。」という記述が多くあった。

保育者志望の学生が、園の保育計画の存在を知らないと答えたのは、10名(12%)いた。この学生に関しても、「保育所保育指針は参考にしている。」と答えている学生が数名いた。

## ②「保育中の活動の流れをどのようにつかんでいるか。」についての回答結果。

表2 「保育中の活動の流れをどのようにつかんでいるか」

	保育者(n=24)		保育者志望学生(n=81)	
	人数	割合	人数	割合
周囲の保育者の動きを見て	6	25%	31	38%
先輩保育者(担任)からの助言	5	21%	37	46%
指導計画を見て	12	50%	11	14%
その他	1	4%	2	2%
	24	100%	81	100%

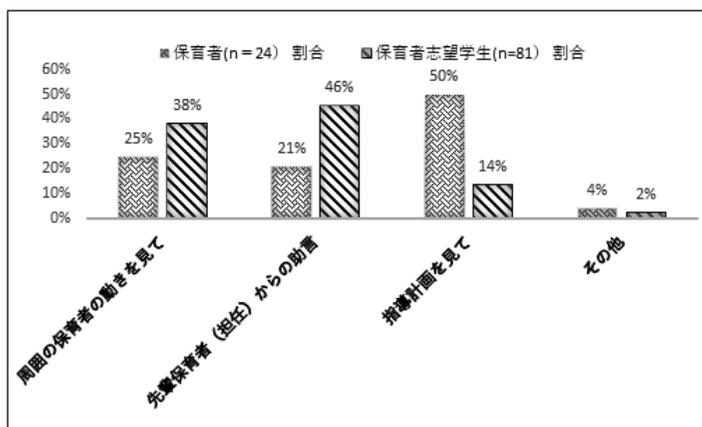


図2 「保育中の活動の流れをどのようにつかんでいるか」

保育中の流れをどのように掴んでいるかという質問に対し、保育現場で働く保育者は、「指導計画を見て」が12名(50%)で最も多く、続いて、「周囲の保育者の動きを見て」6名(25%)、「先輩保育者(担任)からの助言」5名(21%)、「その他」1名(4%)となった。

保育者志望の学生は、「先輩保育者（担任）からの助言」37人（46%）と最も多く、続いて、「周囲の保育者の動きを見て」31人（38%）、「指導計画を見て」が11名（14%）、「その他」2名（2%）となった。

これらの理由に関して、回答した理由を自由記述で求めたところ、保育現場に勤める保育者は、「年間を通じた保育の必要性を感じている。」「子どもの発達に応じた保育の展開が必要である。」と認識している保育者が多かった。

また、保育者志望の学生が、実習時において、「実習をこなすことで精一杯だった。」「担任の先生の指導を聞けば十分と思った。」「実習期間が短いため、保育計画まで意識することができなかった。」という記述があった。

③ 「保育計画は必要と思うか。」についての回答結果。

表 3 「保育計画は必要と思うか」

	保育者(n=24)		保育者志望学生(n=81)	
	人数	割合	人数	割合
絶対必要である	23	96%	59	70%
必要性を感じない	0	0%	18	21%
必要ない	0	0%	5	6%
その他	1	4%	2	2%
	24	100%	84	100%

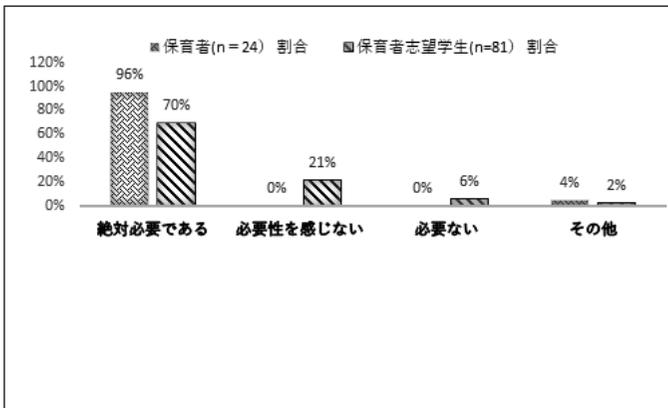


図 3 「保育計画は必要と思うか」

保育計画を必要と思うかという質問に対し、保育現場で働く保育者は、「絶対必要である。」が23名（96%）で最も多く、続いて、「その他」1人（4%）となった。

「必要性を感じない。」「必要ない。」は、ともに、0人（0%）となった。

保育者志望の学生は、「絶対必要である。」59人（70%）と最も多く、続いて、「必要性を感じない。」18人（21%）、「必要ない。」5名（6%）、「その他」2名（2%）となった。

これらの理由に関して、回答した理由を自由記述で求めたところ、保育現場に勤める保育者は、「保育はこどもの成長に応じて、連続性を持って行う必要がある。」「周囲の保育者との共通理解が必要である。」等の理由が多くあり、保育を行う上で、必要なものであるとの認識が強かった。

また、保育者志望の学生が、実習時において、保育を考える上で必要だとは思いますが、それをどのように活かすかが理解しにくい。」「必要だとは思いますが、理解するまでの時間がかかり活用できていない。」という記述があった。

## 考 察

今回の調査によって、保育者と保育者志望の学生の間には、保育課程、保育計画に対する意識に差があることが明らかになった。保育現場で働く保育者は、保育の連続性を意識しており、年間の保育計画や接続カリキュラムなど、長い期間を意識した保育を展開しようと取り組んでいることが明らかになったが、保育者志望の学生は、実習期間等の短い期間での保育展開を考える傾向にあり、保育課程、保育計画に対しての意識が、保育者に比べて低いことが読み取れた。

また、保育者は、保育を保育所全体で取り組むために、保育者の保育に対する共通理解として、保育課程、保育計画を活用しているが、保育者志望の学生は、保育所実習における日々の保育実践が、実習生である学生のみになる傾向があることが読み取れた。

本来保育とは、保育の連続性を考え、保育者間の連携を図りながら、チームで行うものである。保育所実習は短期間であるが、学生自身が、子どもたちの成長を捉え、保育の連続性を踏まえた保育ができるように、保育者養成課程においても、保育課程、保育計画を意識させる指導が必要である。

また、保育所実習においても、保育者との連携を図り、保育に対する共通認識がもてるように保育課程、保育計画を常に意識させる工夫が必要である。

本研究では、保育者と保育志望学生との意識に差があることが明らかになったが、それをどのように埋めていくか、どのような保育者養成カリキュラムが必要であるかについて、今後の研究で明らかにしたい。

## 謝 辞

本研究を進めるにあたり、お忙しい中、アンケートに調査にご協力いただきました保育者の皆様に心より御礼申し上げます。

また、将来の保育者を目指し、実習での経験を振り返り、本調査に協力いただきました学生の皆

様にも心より感謝申し上げます。

今回の調査結果を、子どもたちの輝かしい未来に生かしていけるよう取り組みます。

本当にありがとうございました。

### 引用文献

松村和子. (2004). 幼児の教育課程・保育計画・指導計画 [試論]: 指導計画の役割・機能を考える. *文京学院大学紀要*, **6**, 85-97

### 参考文献

岸井勇雄. (2003). *幼児教育課程総論*. 同文書院

江田美代子. (2007). 保育士に求められる資質能力に関する調査研究. *宮崎女子短期大学紀要* **34**(pp.31-46)

中平絢子・馬場訓子・高橋敏之. (2013). 保育所保育における保育士の資質の問題点と課題. *岡山大学教師教育開発センター紀要*, **3** 別冊, 52-60

